仙台市地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業／協働事業助成

ふるさとを支える

－地域資源を活かした機会の創出による持続的な交流の場づくり－

井土町内会

井土実行組合

若林区井土地区について

≪東日本大震災前後の世帯数と人口の変化≫

103 世帯 ▼▼▼ **11 世帯**

374 名 ▼▼▼ **21 名**

- 東日本大震災により36名の犠牲者を出し、さらに103世帯すべてが全壊という甚大な被害を受けた地区。
- 世帯数の激減により、一度は町内会の解散したものの、現地再建を果たした世帯もあり、**平成29年に町内会活動を再開**。

▼▼▼

宅地跡地の荒廃化　**高齢者世帯の割合増加に伴う自治活動の困難化**

⇒居住する住民だけでは解決できない
⇒今一度、住民同士で「今後の井土」について話し合いたい

地域づくりパートナープロジェクト3年間の取り組み

〈全体の目標〉

居住者が激減した若林区井土地区において
「ふるさとに関わり続ける」ための仕組みをつくる

令和3年度

地域資源の利活用を軸にした「ふるさと」への関わり方の検証

令和4年度

ふるさとを整える－地域資源活用を軸にした地域の継承―

令和5年度

ふるさとを支える
―地域資源を活かした機会の創出による持続的な交流の場づくり―

「“地域資源×交流”を軸にした、ふるさとに関わり続けるための仕組みの具体化」を目指して、以下を実践。
①集まる機会の定着化
②地域資源の積極的活用
③地区内外への情報発信を実践

①集まる機会の定着化／井土プチマルシェ

井土の魅力を楽しめる屋台を並べることで井土地区住民に来てもらい、久しぶりのおしゃべりを楽しんでもらう場として開催。

【第2回】
8/11
（祝・金）

【第3回】
10/28
（土）

①集まる機会の定着化／井土プチマルシェ

外部団体の厚意により、物品や機会、人手の提供が行われた。
また、新たな団体とも連携を図ることができた。

東六郷小
おやじの会

アート
ノード

川俣正
さん

海岸公園
冒険広場

ReRoots

建築
ダウナーズ

①集まる機会の定着化／井土クリーン作戦

「井土地区にかかわる人たちで地区内をきれいにする」という雰囲気が醸成されてきた。

道路のごみ拾い

花壇整備

芝生設置に向けた石拾い

パーゴラ周辺の草むしり

②地域資源の積極的活用／自然環境学習会（第4・5回）

井土の自然資源を活用したイベントを開催することで、震災後の故郷を親子で訪れる機会を創出できた。

【第4回】
押し花の
素材集め

【第5回】
イナゴ
取り

②地域資源の積極的活用／自然環境学習会（第6回）

かつて入会地として共同管理が行われていたヨシ原を参加者とともに見学し、実際にヨシ刈りを実施。

住民に刈り方を聞きながら実施

ヨシの質は低下傾向

若者や子どもたちも参加

アイデア出しWS

②地域資源の積極的活用／自然環境学習会（第6回）

「井土」と「ヨシ」、どういう関係があった？

谷地は
51 世帯の入会地
小午沼も、
井土の入会地だった

昔は、
ヨシ刈りを
共同でやっていた

サチオさんが
ヨシ刈り経験者の中で
一番若い
（当時は 20 代）

松林の植樹の際、
ヨシで「ヨシズ」をつくって、
苗木を風から守っていた

**しかしながら、
今の生活で
ヨシを使っている人は
いない！**

プロダクトデザイナー
小松大知さん

**ヨシは、
「衣」「食」「住」どの分野でも
大活躍してきた素材！**

衣

ヨシを繊維化して、コットンを混ぜることでストールをつくっている企業があるそう。

食

16 世紀末には、すでに食用として利用されていた記録が残っており、飴や煎餅にして食べられていた。

住

日本では茅葺屋根の素材として一般的だが、ヨーロッパでは壁の素材として重宝されている。

他にも、「筆」「笛」「燃料」「薬」として利用されてきた記録が残っており、その多様な使われ方に驚きました！

みんなで
アイデア出し！

**「いくら失敗しても、
いつでも手に入る！」
という手軽さを最大限に利用！**

身近な小物も「ヨシ」でつくってみたい！

- ホタルかごをつくって、昔みたいにホタル取りをしたい！
- 夜の井土に灯りをともす時の、シェードとして使えそう
- 中国では、ちまきを包む時にヨシの葉を使う。とても良い香りがする！
- 束ねて強度を持たせれば、椅子もつくれるかも!?
- テントもできそう！「ヨシかまくら」も！

イベントで大量消費！？いろいろできそう！

- ヨシは良い素材になりそうだから、「ヨシアートフェス」が出来そう！
- 「ヨシナイトマルシェ」も雰囲気が良さそうだなぁ

**ヨシ活用のアイデアを
実現するためには、
ヨシの生育環境を
整えることも必要！**

**今の「井土のヨシ」は
良いヨシ？**

今日のフィールドワークで、
湿地帯に
セイタカアワダチソウが
増えていることに驚いた

震災もあって、
さまざまな
土木的な環境整備も進んで、
井土においては
ヨシの生育環境が
激変したといえる

今後も
環境が変わる
可能性はある

湿地帯のはずだが、
陸地化
している？

**ヨシの生育環境への関心を高めることが、
品質の良いヨシを
みんなで育てることにつながるのでは！？**

②地域資源の積極的活用／自然環境学習会（第6回）

ヨシの花入

グラスやワイン瓶に、細いヨシを接着剤で貼り付けることで、野花にも似合う花入ができあがります。
誰でも簡単に作れることや暮らしの中に取り入れやすいアイデアです。みんなで井土の野花を摘んで、花を活けてみるものいかがでしょう。
切って接着するだけなので、マルシェなどのワークショップにも向いています。

井土産ヨシの活用案① ほうき（試作）

井土産ヨシの活用案③ 腰掛け（イメージ模型）

③地区内外への情報発信／「井土まちづくりレポート」

住民への活動の周知という側面に加えて、外部団体との連携においては、これまでの活動を説明する際の資料として役立てることができた。

美術家・川俣正さん制作！新しい溜まり場ができました

美術家の川俣正さんが進める「仙台インプログレス」（主催：せんだいメディアテーク）は、今年度は井土地区で実施されました。川俣さんは、井土町内会をはじめとした住民の皆さんからの「集まれる場所がほしい」という要望を聞いて、8 月上旬に地区内で滞在制作を行い、さまざまな仕掛けをつくってくださいました。川俣さんの手による新しい溜まり場に、ぜひお立ち寄りください！

自然エネルギーの活用を検討する協議会が発足しました

井土町内会は、NPO 法人きらきら発電・市民共同発電所とともに『井土浜にサン・アイス広場を』検討協議会」を発足させ、令和 5 年度宮城県エコタウン形成事業に採択されました。この協議会は、井土地区の豊かな自然環境と広大な土地を活かして、太陽エネルギーを活用した「氷室」を共同利用するための事業を具体的に検討するための場です。今後、学習会や視察を重ねながら実現可能性について探っていきます。随時ご報告しますので、興味のある方はぜひご参加ください。

「第 3 回井土プチマルシェ」開催決定！

3 回目は「収穫の秋」に開催します！井土産の新米も登場予定です。ぜひご参加ください！

【日時】
2023 年 10 月 28 日（土曜）10 ～ 13 時

【会場】
井土地区内広場

※詳細は広報チラシや、SNS 等でご確認ください。

さまざまな形で情報を発信しています。ぜひご覧ください！

Twitter　Facebook　note　LINE

井土クリーン作戦、開催中！

10 月 11 日（水曜）
11 月 11 日（土曜）
両日ともに 9 時～　@井土集会所
ご参加をお待ちしています！

9840842 井土まちづくりレポート 第１３号

8 月 11 日開催！「第 2 回井土プチマルシェ」今回も大盛況！

▲当日は、いつもどおり朝 9 時から「井土クリーン作戦！」も実施しました！

山の日でもあり、東日本大震災で犠牲になられた方々の月命日でもある 8 月 11 日に、昨年 11 月に続いて二度目の開催となる「井土プチマルシェ」が、井土地区内の広場で行われました。

「井土プチマルシェ」は、井土の魅力を楽しめる屋台を並べることで、井土地区に住んでいた方々にお越しいただき、久しぶりのおしゃべりを楽しんでいただく場です。今回は夏休み中の開催ということもあり、お子さんが参加しやすい屋台も並べました。当日は青空に恵まれ、多くの方にご来場いただくことができました。

●発行・編集：井土町内会、井土まちづくり推進委員会（ido9840842@gmail.com）　●2023 年 9 月発行

③地区内外への情報発信／展示の開催

企画展
「ふるさとを整える
―仙台市若林区井土地区の歩み―」
＠せんだい3.11メモリアル交流館

川俣正さんのプロジェクト紹介に
合わせて
井土地区の取り組みを展示
＠せんだいメディアテーク

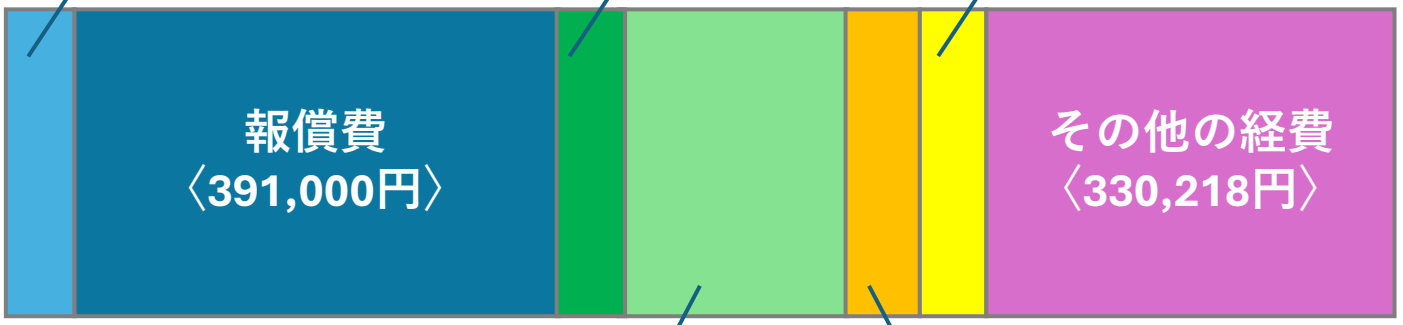
令和5年度事業の収支

総事業費：1,143,603円

【収入】

事業収入
〈114,603円〉

【支出】



人件費
〈65,000円〉

消耗品費
〈57,573円〉

使用料および賃借料
〈54,400円〉

印刷製本費
〈187,730円〉

通信運搬費
〈57,682円〉

令和5年度事業の成果①活動の定着化

２年目を迎えた「井土クリーン作戦」については、事前告知をしなくても「11日に集会所前に集まる」という新しい習慣が住民間に根付いてきた。この機会でしか顔を合わせることができない住民もいるため、作業終了後の屋外での交流も盛んであり、「被災した故郷を自らの手で整える」という活動をとおした地域コミュニティの再形成が果たされている。

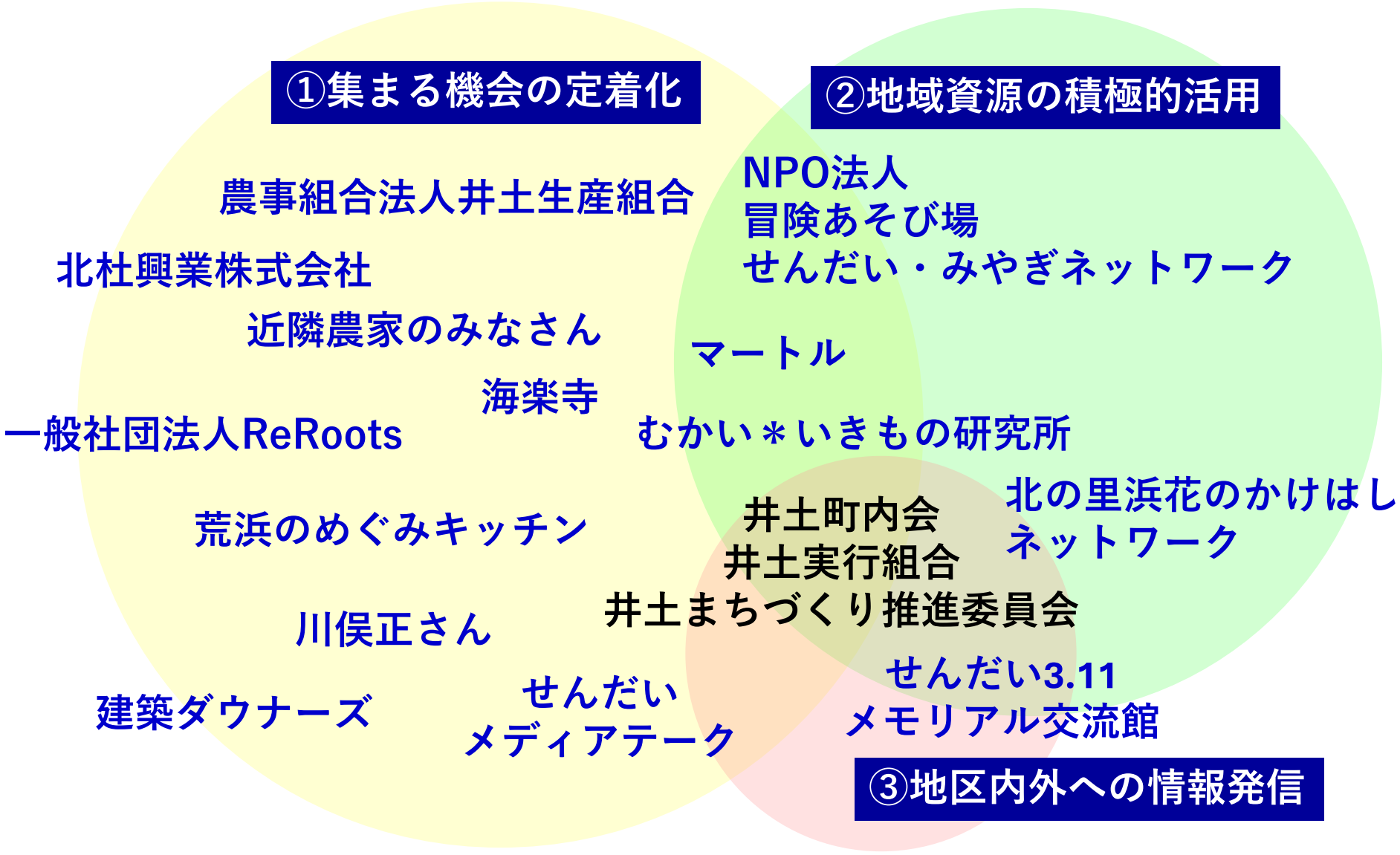
川俣正氏が設置したベンチによって、クリーン作戦後の休憩時の交流もゆったりと行われるようになった。

令和5年度事業の成果①活動の定着化

「井土プチマルシェ」についても、第２回・第３回ともに300名程度の来場者で、振り返りの場面では「顔の分かる人や、知り合いの親類の人が多かった印象。これ以上来場者を増やすことは考えずに、いかに住民同士が集まる場として継続できるかに注力していきたい」という意見も出され、今後も住民をはじめ、井土地区の関係者がしっかりと足を運んでくれる場になることを目指して取り組んでいきたい

不特定多数の市民を地区内に迎え入れることを目指すのではなく、良い意味で「閉じた活動」にすることで、当初から掲げている「住民同士で集まって語らう」という目的が達成できている。

令和5年度事業の成果②多様な外部関係者との協働の実現



外部者との協働によって、住民が暮らしの中で得てきた経験知が可視化され、
さらなる価値へと昇華する場面が多々みられた

これまでの活動をとおして住民自身の主体性が育まれ、「井土をより良くしていこう」と独自の活動が生まれ、本事業に申請した地域づくり以外の取り組みが豊かになっていった。

第2回
「井土のこれから大会議」
の様子

「井土まちづくり計画」策定の経緯

井土地区では、2021年の「井土まちづくり推進委員会」の設立を契機として、東日本大震災以降の世帯数の激減や宅地の未利用の深刻化を課題と捉えながら、井土町内会と連携してまちづくり活動を行ってきました。特に、2021年度から3年間にわたって「仙台市地域づくりパートナープロジェクト」に採択され、井土をふるさとにする住民たちが一丸となってまちづくりに関われるよう、「ふるさとに関わり続けるための仕組みづくり」に尽力してきました。それにより、井土ノチマルシェの開催をはじめ、井土クリーン作戦の定例化、「井土まちづくりレポート」等の情報発信の継続、自然を活かした学習機会の創出を実現してきました。

そして、2023年度においては、当初からの課題であった未利用宅地の活用を具体的に検討するべく、「井土のこれから大会議」を開催し、住民がさまざまなアイデアを出しながら、井土のこれからの土地利用の可能性を探ることができました。

2024年度以降は、こうした土台をもとに、さらにまちづくり活動を発展させるべく、本計画書に基づいた実践を重ねていきたいと考えています。

井土地区のまちづくりのテーマ

井土ならではの
土地活用のグラデーション
をつくる

スポット活用　賃借　譲渡

まちづくりにおいて重要なのは、住民の主体性です。井土地区では、これまでも主体性を発揮しながら、さまざまなアイデアを活かしながら大震災後の活動を展開してきました。

その主体性を、今後は土地活用に重点的に活かしていきます。「井土のこれから大会議」で住民から出されたアイデアを整理すると「活用のグラデーション」が見えてきます。このグラデーションを具体的に示しながら土地活用を図ることで、「井土の魅力の発信」「利用者の発掘」「将来像の共有」を目指します。

これまでの活動も継続します！

井土地区における「土地活用の3ステップ」を推進していくためには、地区住民や関係者が集まりながら話し合える状況を整えていくことが重要です。これまでどおり、以下の取り組みをとおして気軽に集まる機会をつくりながら、まちづくり活動を進めていきたいと考えています。

「井土クリーン作戦！」の継続
井土地区全体の維持管理の仕組み化を目指します

「井土プチマルシェ」の継続
住民同士で集まる機会をつくり続けます

「井土自然環境学習会」の継続
井土の地域資源を活用した魅力の創出に努めます

情報発信・協議の継続
住民・市民のまちづくり協議会への参加を促していきます

「井土まちづくり推進協議会」について

本計画は、3か年（2024年度～2026年度）で取り組みます。この計画に取り組むために、井土まちづくり推進委員会を「井土まちづくり推進協議会」と改め、井土地区住民以外もまちづくりに参画できる仕組みを整えていきます。

井土まちづくり推進協議会
井土町内会／井土生産組合／井土実行組合／井土農地環境保全隊／井土農会／海楽寺／井土墓地管理組合／井土地区内企業／外部サポーター

「井土まちづくり計画」に関するお問い合わせ
井土まちづくり推進協議会
■電話：080-1670-1575（大友）
■メール：ido9840842@gmail.com

仙台市若林区
井土地区
まちづくり計画
2024-2026

I DO！
WE DO！
井土の土地活用、できるところから始めよう！

井土まちづくり推進協議会

パターン01 スポット活用

これまでも実践してきた地域資源を活かしたイベントは、今後も井土地区の魅力発信のために継続していきます。井土地区からは資源と知恵を、外部からは技術と表現を取り入れながら、井土を楽しむための仕掛けを展開していきます。イベントを実施する際には一時的に空き地を活用する等、スポット活用の実践事例の拡充を目指します。

◎これまでの取り組み

▲第2回井土プチマルシェ（2023年10月）

◎これからの取り組み

2024年度 ◇宅地跡地のイベント利用の拡充
これまで行われてきた自然環境学習会やワークショップ等のイベントを、[illegible]

2025年度 ◇ワークショッププログラムの開発
より積極的に宅地跡地を利用するには、屋外での活動を充実させる必要があります。そのためのプログラムを開発します。

2026年度 ◇ワークショップの定期的実践
屋外の活動を充実させるとともに、地区外の市民が井土地区に訪れる機会を創出していきます。

パターン02 賃借

現在未利用となっている土地は、関心のある市民（＝第三者）に使ってもらうことで、空き地の荒廃化を防ぎ、新たな活用によって街並みをつくっていくことを目指します。すでに全国各地でみられる「第三者による個人所有地の活用」を学習しながら、井土ならではの「第三者が使うための仕組み」を整備し、持続可能な地区運営を検討していきます。

◎これまでの取り組み

▲パーゴラ付近の除草作業（2023年11月）

◎これからの取り組み

2024年度 ◇花壇エリアの拡大と手入れの拡充
これまで「井土クリーン作戦！」で実施してきた花壇づくりを、個人の宅地跡地に拡大して展開します。併せて、「みんなで手入れする」やり方で維持管理を図ります。[illegible]

2025年度 ◇第三者の中・長期的関わり方のモデルケースの検討
第三者のニーズを把握し、井土の宅地跡地でできることを検討していきます。

2026年度 ◇「第三者への賃借」を可能にする仕組みのデザイン
井土地区におけるニーズとともに、全国の先行事例を踏まえて行政と協働しながら考えます。

パターン03 譲渡

宅地跡地の活用方法については、住民の中でもさまざまなアイデアが飛び交っている状況です。どのような方法であれ、「自分の土地を誰かに託す」ことが選択できるようにする必要があります。「井土のこれから大会議」の開催等、これまでのように住民間の議論を継続させ、規制緩和策を仙台市に具体的に提案できるように、学習と議論を重ねていきます。

◎これまでの取り組み

▲第2回井土のこれから大会議（2023年6月）　▲井土プチマルシェでの話し合い（2023年10月）

◎これからの取り組み

2024年度 ◇行政との定期的な対話の場づくり ◇他地区との連携
住民間の活発な議論の中で出されたさまざまなアイデアや意向について、行政に伝えるために対話の場をつくっていきます。併せて、同様の課題を抱える他地区との連携も積極的に図っていきます。

2025年度 ◇住民の意向確認
これまでの学習内容や行政との対話を共有した上で、今後の宅地跡地の活用のあり方について、住民アンケートを実施します。

2026年度 ◇「土地活用に向けた手法を行政と協働で検討」
これまでの取り組みを踏まえて、宅地跡地活用を具体的に進めるための手法を行政と協働して検討します。

現在の取り組み

令和6年度においては、民間2団体の助成によって、さまざまな活動を継続。

ヨシ原の
フィールド
ワーク

ヨシで
ランプ
シェード
づくり

竹
プランターの
制作

「まちづくり
レポート」
の発行

9840842 井土まちづくりレポート 第16号

4月20日開催 第3回 井土のこれから大会議

3年間の歩みを活かして、次のステップへ！

仙台市地域づくりパートナープロジェクトに採択していただいたことで、被災してからの10年の間に実現できなかった「住民同士で集まる機会をつくる」ことを果たし、住民主体の地域づくりに踏み出すことができました。

大変有意義な3年間の活動となりました！
この場を借りて、感謝申し上げます。